

■あとがき

リュ

こんな奴でもヒロインその1。控え目に言って馬鹿であり、即断即決の連続のみで生きてきた。能力の伴う馬鹿ほど面倒なものはないという実例。

猟奇殺人の現場にかけつけては「遅かったか・・・！」を繰り返して遊んでいたが、なんだか飽きてきたためフェイトへの依頼を実施。その後はイベント発生までヒルコ街でゴロゴロしている。

PS 判定で消耗した神業次第では役に立たないどころか勝手に死ぬ。あれ、この子確かヒロインじゃ・・・

探偵が何なのかすらわかっておらず、祈祷が何かで失せ物を探す特殊能力者だと勝手に思い込んでいる。

なお婉曲的に表現されているが、イラムの祖先は天狗であり彼女の能力はそこに由来する。

鹿鳴館すみれ

普通のシナリオなら正統派なヒロインその2。No.2 に甘んじるのは百合成分強めなせいなのか。本作の精神的犠牲者。ゲスト達の中ではほぼ唯一の至極真つ当な常識人。

父親を嫌っているわけではないが、向き合い方がわからず悩んでいる。折を見てキャストに相談するシーンを作れるとヒロイン度が増す。わだかまりが解けた場合は父親と積極的な交流を図る。はず。多分。

イベントでそのまま誘拐されてしまった場合、割と立ち直り不可能な精神ダメージを受け狂人ENDへまっしぐら。

鹿鳴館剛三

べらんめえ口調の親馬鹿レグラー。スタイル的にはレグラー＝エグゼク＝クロマクといったところ。

猟奇殺人のニュースにおびえる一人娘・すみれの身を案じて、護衛を雇う一方、調査を依頼。これだけでも総額1ブラチナムオーバーの金がかかっている。親馬鹿ここに極まれり。

世間的な奇異の眼が娘に行くことを案じて事件の隠ぺいを行い、その際目的を同じくする羽釜の協力を得ている。隠ぺいの協力条件が「協力者（＝羽釜）を調べない事」であったため、表立って羽釜のことを調べることができず、話すこともできない。

ルウ

自称・本編の真のヒロイン。元ネタはとある漫画に登場する「輸血にも食用にも使える万能鳥人間」。

アクトトレーラーで語られる“彼女”とは要はこいつのことである。そこだけ読むと聖女が何かのようだが本質的にはただのドM。煮てよし焼いてよし生でよしの肉体的犠牲者だが、こいつを食ったが最期、もはや普通の食生活には戻れません。親友においしく食べてほしい倒錯的願望を抱くちょっとサイコ気質な普通の良い子。

回想シーン中に一言二言セリフがある程度の出番しかないアイドルタレント吹き替え枠。

“クライムトリガー”ミシェイラ＝アイオーン

本作における真のボス。悪魔と思わせておいて実は人間。惨劇に流れる血と涙こそ至高のディナー。苦悩と悲劇は最高のスパイス。残された者の悲しみは極上のデザート。

キャストから情報を得た後は独自に羽釜と交渉。彼が死んだ場合はイラム族が最高の食材である事を暴露する役を買って出る。クライマックス戦闘後の暴露が防げない場合、イラム族は家畜として未永く生存する事になり、ヒルコに人権とかいらなくね？という風潮が蔓延していく。めでたしめでたし。

かつて研究に行き詰った羽釜逢真に「空腹こそ最高のスパイス」「空腹の極致は飢餓」といった極端なアドバイスをし、これが崩落事故の遠因となったのだが、彼女自身はこの事を完全に忘れていた。

「能動的行動の結果が惨劇を呼ぶ」体質の持ち主。一種の呪いの類であり、周囲の人間は軒並み非業の死を遂げている。現在の性格は正気を保つため形成されたものだが、これを正気と呼んでいいものかは少々悩ましい。

戦闘力は羽虫以下。キャストが殺すといえは死ぬ。

羽釜逢真

狂気の善人。目的のためなら自らの命など惜しみなく捧げる。「すべての人においしいご飯を食べてほしい」という夢を抱いたまま大人になった結果が御覧のあり様。

崩落事故においてイラム族のルウがそこにいてしまった事が最大の偶然であり悲劇の発端でもあるが、時間帯ごとの統計情報からより多様な人種・性別・年齢層が居合わせるタイミングを図っていたため、完全に偶然とは言えない。ルウに対する加害者であり、ルウによる一番の被害者でもある。

鹿鳴館剛三へは協力者として恩義を感じており、すみれに危害を加える気は一切ない。むしろ彼女を巻き込まないためにカオナシを護衛として潜り込ませていたのだが、結果としてそれが裏目に出る事になる。

蜘蛛蜥蜴

戦闘ゲスト枠その1。生存者を殺して回る簡単なお仕事。

過去に壊滅した傭兵部隊「蜘蛛蜥蜴」の生き残り。「金のためにのみ動く」がモットーであった部隊の流儀に習い、金にならない事は一切しない。

今の存在理由は「蜘蛛蜥蜴は最強であった」事を証明する事。かつて“最強”と呼ばれた者達より強い事を証明するためN◎VAに来たがことごとく出会う前に姿を消されてしまい、以降強い相手と戦う機会を夢見ながら職業暗殺者を続けている。

見た感じと言動と性格がかなりアレだが性別は女性。当時、部隊最年少だったが故に彼女だけが生き残ったのだが、果たしてそれは幸運といえるのだろうか。

カオナシ

戦闘ゲスト枠その2。ルークになりすましている。

かつてはCFC販売促進部の工作員だったが、任務に失敗し処分される寸前に羽釜に救われ、以来忠誠を誓っている。

表向きは任務に忠実な腹心キャラだが内心結構アツイ方。すみれを助けるという意味に偽りはなく、事故の生存者を探すキャスト達の存在を蜘蛛蜥蜴の情報から察知、すみれを保護する目的で独断での誘拐を決意した（逃走の際に取った行動はどうかと思うが、カブトを信頼しての事、としておこう）。

『②カブト』の事を気に入っており、このまま相棒を続けるのも悪くないかな、と結構本気で思っていた。

本当はルークのようなヒーローになりたいかったのかも知れない。

その他

一部ゲストの名前や単語の元ネタは鳥人戦隊ジェットマン。設定が異常に濃い。あまりにも濃すぎて名前以外のネタを引っ張り込むのを断念したほど。

Special Thanks To:
プレイに参加・アドバイス頂いた皆様
and You.